

## 食べ物の産地を調べる地図活用

広島県広島市立千田小学校 丹 雅祥

### 1. 自分の手で地図を作る

「わたしたちの生活と食料生産」の単元で、まずふだん食べている食料品をあげ、地域にあるスーパーや八百屋にでかけて産地調べを行った。商品棚に産地の表示のあるものもあるがその数はあまり多くない。店舗の外に置いてあるダンボールケースを調べると、さまざまな産地名を探ることができた。早速学校に帰って地図帳で産地名探しを行った。子どもたちは生き生きと活動していた。

教科書の記述に産地名が書かれている場合、地図が資料として併記されている場合が多い。視覚的にはわかりやすいし、能率的に学習を進めることができるが、もっと調べたいともっと知りたいという意欲に結びつきにくい。

白地図に自分が調べてきた産地名を一つひとつ地図帳で調べ、自分の手で地名を書きこむ活動をしてみると、学習への意欲の高まりがみられた。その結果、自分が書き込んだ地図を見て産地の位置や分布状況、また自分たちの住んでいる所との距離感も認識することができたのである。子どもたちの地図を教室掲示すると、友だち



の地図と見比べながら批評し合う姿も多く見られ、社会科の時間の前の休憩時には積極的に地図帳を広げ、友だち同士で地名当てクイズをしている姿が見られるようになった。

このように自分の地図作製の作業には時間

がかかったが、得るものが非常に大きかったと言える。

### 2. 日本全図とタイアップして

産地調べをするとき、市や町、村の名前まで調べようとすると、どうしても拡大した地図を使うことになる。拡大図を調べるだけで学習を終えると、日本地図での位置の認識が弱くなってしまい、自分たちの住む町と産地の位置関係や距離感がつかみにくくなってしまおうという問題が起きてきた。

そこで、地図帳は常に机の中に入れておくことにし、また、日本全図を教室に常掲し、社会科だけでなく県名や地名が出たときには地図帳を取り出して調べ、必ず日本全図でその位置を確認することを繰り返した。その結果、地図上の位置の認識は高まってきたようだ。

### 3. 地図帳をもっと活用しよう

ピーマンの産地である宮崎県西都市の場所を地図帳を開いて調べていた子どもが、宮崎県の他の場所でもピーマンが作られていることや他の産物（さといも、たばこ、とうもろこし、さつまいも…）も生産されていることを発見した。地図帳には、教科書に載っている地図記号だけでなく、農業・水産業・林業の産物記号をはじめ、交通、環境、歴史など多くの情報が載っている。けっこう地図帳を開いていたにもかかわらず、地名探しで利用することが多かったため、今まで気がつかなかったようだ。地図帳をうまく活用すれば「食べ物の産地調べ」の学習を深めることができるのである。

### 4. 最後に

いかに地図帳が素晴らしい資料であっても、それを利用する子どもたちに調べようという意欲がなければ退屈な、めんどうくさい資料になってしまう。そこで、計画的に社会科の授業の最初の2～3分を使って、県名当てクイズや地名さがしゲームなどの遊びを取り入れてみた。それ以後、社会科の勉強楽しみにする子どもが増えてきた。クイズやゲームを仕組むことは学習意欲に結びつく有効な手段だと言えるのではないだろうか。